



東陽病院
薬剤科長
石田 慎一

薬のうまい使い方

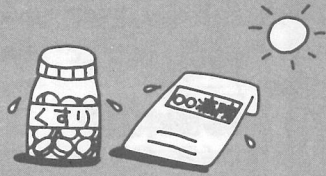
忘れがちなことなのですが、薬の保管ということは大事なことです。薬が発売されるまでには、色々な状態での保存試験を行い発売されます。薬にとっては過酷な条件での試験が行われるので、光の当たらない涼しいところに保管していただければ問題になるようなことは通常はありません。

台紙にも色々な工夫がなされております。分りやすいものは赤い台紙に入ったものです。遮光を目的とした台紙です。そのような台紙にはいつているものは通常、光により変色するか効力が落ちてしまうものです。台紙の工夫だけではなく、錠剤そのものに遮光のための皮のようなもの（剤皮）を施しているものもあります。

インスリン注射液というものがありません。インスリン注射を必要とする糖尿病の患者さんが使用するものなので、薬の説明書には遮光して

2〜8℃に保存とあります（短期間なら室温でも良い）。製品によって保存方法にも差がありますので、詳しいことは薬局窓口で聞いていただきたいのですが、注意していただきたいことが2

クスリの保管



点程あります。一つは海外旅行に行くときなのですが、インスリン注射液をトランクの中に入れて、飛行機の貨物室にいたままにしておきますと、インスリンが凍って使用できなくなる場合があります。この場合、凍ってインスリンが変質を起こすというのですが、解凍すれば良いというものではありません。

飛行機などに乗るときは手荷物の中に入れて運んでください。もう一つは車のなかに入れておかないことです。この場合は車中の異常な温度の上昇でやはり、インスリンが変質してしまいますので避けてください。人間にとつてつらい環境は薬にとつてもつらいものなのです。

薬は医師が個人に合せて処方したものです。病状が同じだからと他の人にあげたり、自分の勝手な判断で中止したりはしないで下さい。もちろん、薬はいつも良い作用をするとは限りません。目的以外の作用（副作用）を表すこともあります。その時は中止して医師や薬剤師に相談して下さい。

薬はうまくつかってこそ薬です。



害虫の駆除

清潔な環境と除湿で予防する

夏が近づくと住まいの害虫たちもさかんに活動を始めます。台所に食べ物や水気を残しておく、

ゴキブリを繁殖させる原因になります。生ごみはふたのしつかりした容器に入れ、夜はできるだけ台所の水分を拭き取っておきましょう。通り道になりそうな流しの下や冷蔵庫の裏に捨てる粘着性捕獲器やホウ酸ダングをおき、姿を見つけたら殺虫剤や台所洗剤、熱湯をかけて退治。徹底的に駆除したいなら発煙式の殺虫剤を使います。

ダニも、温かく湿気のある環境を好むので、普段から家の中に風を通すことを心がけましょう。ダニの温床になりやすい畳やじゅうたんには念入りに掃除機をかけ、天気の良い日には虫干しします。畳の上にじゅうたんやカーペットを敷くのは勧められません。やむを得ない場合は畳の面積より小さいものを。その際、間に防虫シートを敷くようにします。畳にひそむダニの駆除には針を差し込んで注入する殺虫剤を使いますが、発煙式の殺虫剤を併用すると一層効果的です。



ハエは赤痢やチフス、ジフテリアなどの病原菌を運ぶ害虫です。生ごみはふたのある容器に入れ、それでも集まってくるようなら有機リン系の殺虫剤を使います。ハエは犬や猫の排泄物に産卵することがあるので、ペットのフンは早めに処理します。

蚊の予防は、産卵場所となる下水道や用水池などで幼虫が繁殖しないようにすることから気配りを。水まわりの定期的な清掃のほか、水たまりのできやすい空き地や下水溝などには地域単位で殺虫剤をまくようにします。

いずれの害虫の場合も、すぐに殺虫剤に頼るのではなく、普段からこまめに清掃し、住まいを清潔に保つことが大切です。